●開催校企画テーマセッション(80 分)

「日本企業の変化－日米企業の収益性とライフサイクルを考える－」

研究成果報告形式

◎清水　洋（早稲田大学　商学学術院　教授）
野間　幹晴　氏（一橋大大学大学院　経営管理研究科　教授）
原　泰史（一橋大大学大学院　経済学研究科　特任講師）

[概　要]

10 月 17 日(土) 10:00～11:20　A 会場

日本企業の収益性はなぜ低下しているのでしょうか。企業の間で収益性の推移に差はあるのでしょうか。このセッションでは 1950 年代から 2010 年代までの日米の上場企業を分析対象として、企業が時間とともにどのように変化しているのか(あるいは変化していないのか)を考えていきます。このセッションは 2 つの報告とオープンなディスカッションで構成する予定です。1 つの報告では、設立からの経過年数の影響、経営資源の流動性、研究開発の経路依存性、超過利益の平均回帰などの観点から、実証的に日本企業の収益性について考えていきます。もう 1 つの報告では、日米企業のライフサイクルと利益率を比較することで、日本企業が成熟化しやすく、米国企業は成長志向が強いことを浮き彫りにし、その制度的な背景について考察した研究を報告します。

[参加者へのメッセージ]

このセッションでは時間の経過の中でどのように企業行動が変化していくのかについて焦点を当てて研究した結果を報告していく予定です。このセッションでの報告は、まだ研究途上のものであり、さまざまな実験的に分析を試しているものです。そのため、参加される方からのフィードバックやディスカッションが欠かせません。

また、今回は、会計学者の野間幹晴さんに参加いただいています。普段の組織学会では聞けない新鮮な視点が提供できるセッションになると思っています。時間の流れの中での企業行動の変化、日米企業の比較、イノベーションなどに興味がある方(あるいはその他の興味御関心をお持ちの方も)、ぜひ、ご参加ください。